

目指す方向

県民とともに進める森林づくり

～みんなで森林のことを考えよう～

県民参加の森林づくりを推進します。

林業・木材産業の面からだけでなく、県民参加の森林づくりや企業の社会貢献活動を進めることにより、森林の大切さや守り育てる意義を広く発信します。

「とっとり共生の森」による森林保全活動の更なる充実等を進めます
「森林環境保全税」を活用し、すべての県民が享受する森林の公益的機能を持続的に発揮させます
平成25年の「第64回全国植樹祭」開催に向け、県民運動を展開します

【目標指標】 とっとり共生の森参画企業 14社（H21） 19社（H26）

<主な役割>

県民・企業

森林保全活動等への理解と積極的な参加を進めます

- ・「とっとり共生の森」への参画
- ・その他森林ボランティア活動等への参画・支援
- ・県民税に上乗せされる「森林環境保全税」の負担（個人：500円/年）
- ・第64回全国植樹祭開催に向けた県民運動への参画

行政

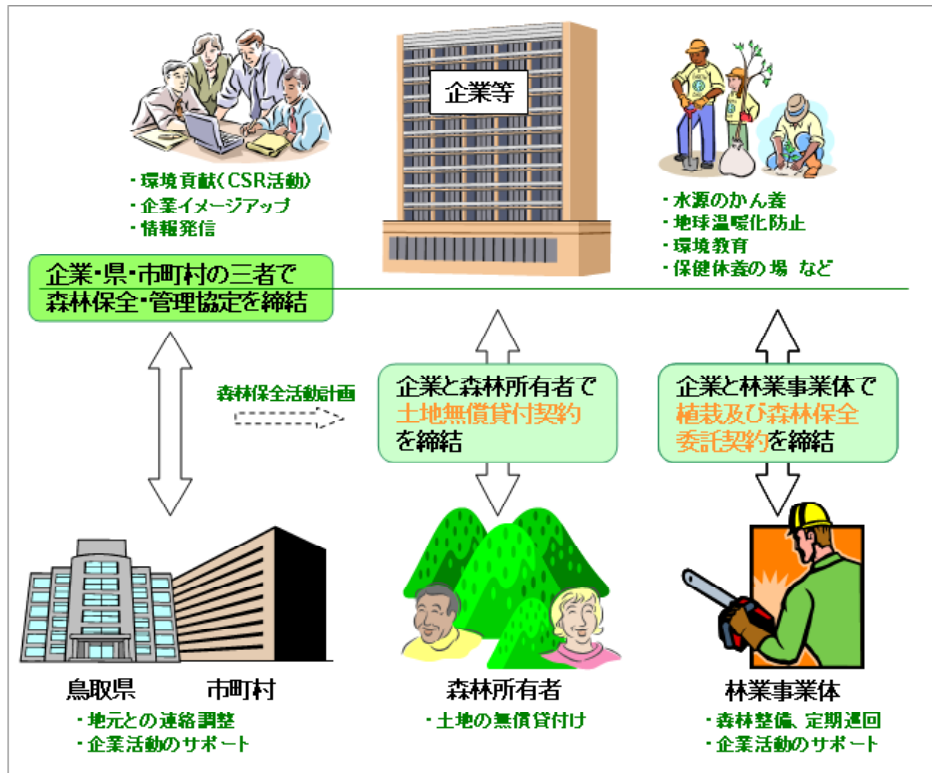
森林保全活動等に対する普及・啓発を進めます

- ・「とっとり共生の森」への参画に向けた働きかけと活動状況の広報
- ・森林ボランティア活動等への支援
- ・機能の低下した森林の適切な整備・保全
- ・第64回全国植樹祭開催に向けた準備及び県民運動の推進

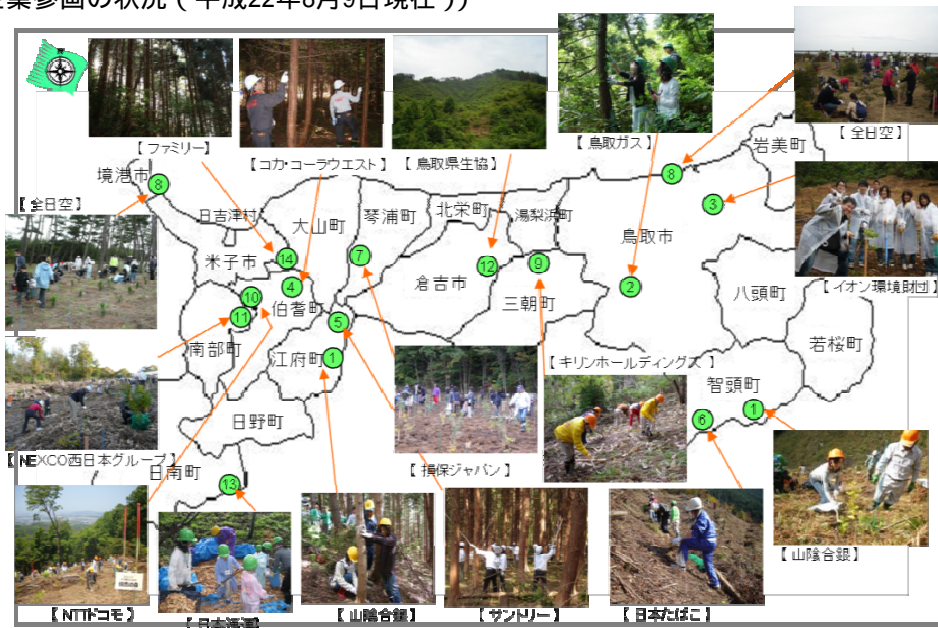


【事例：とっとり共生の森】

企業等による環境保全活動に、県内の森林を活用していただくため、県と地元市町村が連携・協力し、森林所有者と企業等との架け橋となり、地元との調整や企業等の森林保全活動を支援しています。



(企業参画の状況(平成22年8月9日現在))



【コラム】全国植樹祭の鳥取県開催について

全国植樹祭は、国土緑化運動の中核をなす行事として昭和25年以来、天皇皇后両陛下の御臨席の下、全国各地からの参加者を得て、両陛下によるお手植えや参加者による記念植樹等を通じて、国民の森林に対する愛情を培うことを目的に毎年開催されています。

平成25年には第64回全国植樹祭が鳥取県で開催されることが決定しており、県では実行委員会を立ち上げて準備を進めています。

基本理念

本県の森林を取り巻く状況や国際的な動きを踏まえつつ、持続可能な森林づくりによる地球環境の保全や、森林と親しみながら共生してゆくライフスタイル等の「心癒される森林づくり」を提案します。さらに、全国との交流を図る中で、環境先進県である「とっとり」をアピールします。

平成22年：国際生物多様性年

COP10開催。生物多様性損失に対する国民の危惧が今まで以上の高まり

平成23年：国際森林年

持続可能な森林経営等について、認識を高めるよう国際的な取り組みの実施

平成25年：温室効果ガス削減第2約束期間のスタート

京都議定書後の温室効果ガス削減の新たなスキームがスタートする予定



平成25年：第64回全国植樹祭鳥取県開催

持続可能な森林づくりによる地球環境の保全や、森と親しみながら共生してゆくライフスタイル、就業スタイル等を「心癒される森林づくり」として提案



環境先進県「とっとり」をアピール

大会テーマ及びシンボルマーク

今後、開催気運を高めるような「大会テーマ」と「シンボルマーク」を県内及び全国から公募・選定する予定です。

県民運動

全国豊かな海づくり大会（平成23年度鳥取県開催）への取り組みとして始めた県民総参加でふるさとの森・川・海を守り育てる「白うさぎ大使による新たな国造り運動」を継承発展させ、全国植樹祭の開催理念を将来に向かって共有・実現し、次の世代につなげていくよう取組みます。

白うさぎ大使による新たな国づくり運動

- ・森林保全活動(放置された里山林の再生活動等)
- ・環境保全活動(清掃活動等)

県民の森林づくりに対する意識の醸成

森林・林業・木材産業の再生に貢献

新たな仕組み(カーボン・オフセット)を活用した森林^{もり}づくりを推進します。

地球温暖化対策のための取組である「カーボン・オフセット」を活用し、県内林業の活性化と森林の整備・保全の一層の推進を図ります。

カーボン・オフセット を活用した森林整備を推進します

カーボン・オフセットを活用した新たな森林管理モデルの普及を推進します

【目標指標】 県有林 J - V E R 販売企業数 0社 (H21) 9社 (H26)

< 主な役割 >

県民・企業

カーボン・オフセットを通じた森林整備への支援を進めます

- ・ オフセット・クレジットの購入
- ・ 木質バイオマスエネルギーの積極的な利用

森林所有者・森林組合等林業事業者

カーボン・オフセットを活用した森林整備を進めます

- ・ カーボン・オフセットを活用した森林整備
- ・ 未利用林地残材の活用
- ・ 木質バイオマスエネルギー利用への理解促進に向けた普及・啓発

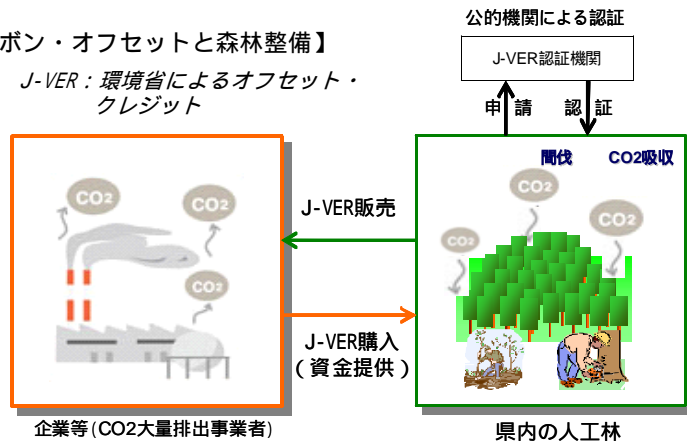
行政

カーボン・オフセットを活用した森林整備手法の普及・啓発を進めます

- ・ 「県有林 J - V E R プロジェクト」の先行的実施
- ・ カーボン・オフセットを活用した森林整備手法の普及・啓発
- ・ 木質バイオマスエネルギー利用への理解促進に向けた普及・啓発

【カーボン・オフセットと森林整備】

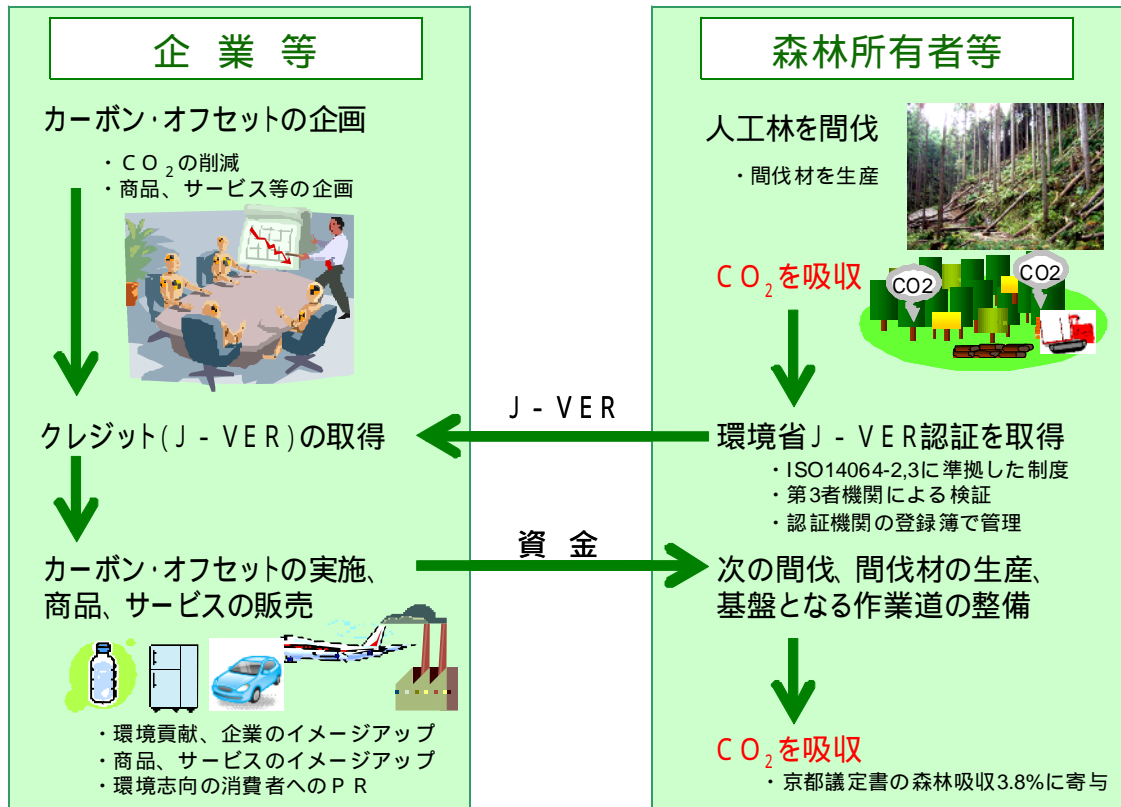
J-VER : 環境省によるオフセット・クレジット



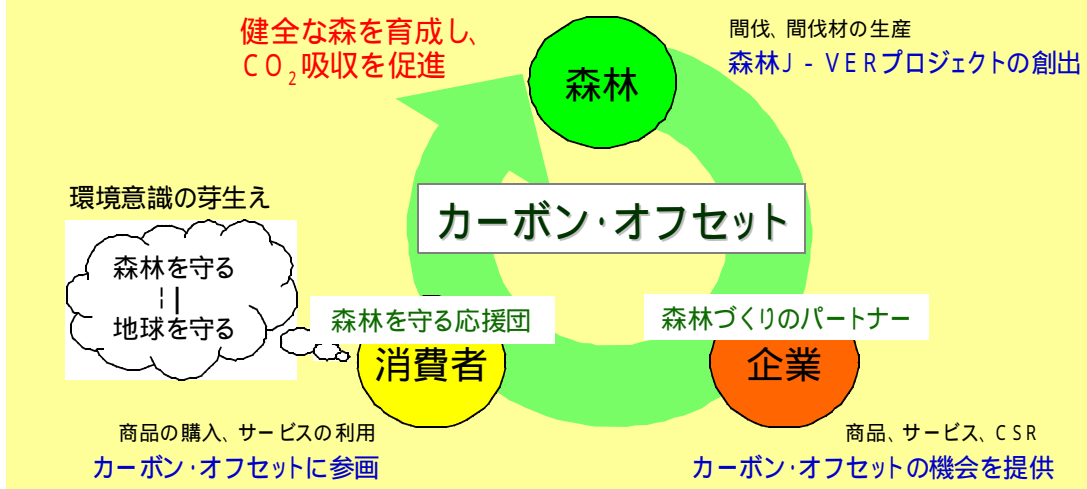
企業等が、自ら排出するCO2の削減に努め、削減できない分について他の場所での排出削減・吸収活動に投資すること等により、自らの排出量を自主的に埋め合わせる仕組み。

森林を活用したカーボン・オフセットの仕組み

カーボン・オフセットにJ-VERを使うことで、国内の森林整備（間伐）が進み、地球温暖化防止や森林保全に貢献することができます。



カーボン・オフセットで森林づくりの輪



森林とともに生きる営み・暮らしを推進します。

木材以外の森林からの恵みを利用した営み・暮らしを推進するため、利用されずに放置されてきた里山等における広葉樹林や竹林の整備を進めます。あわせて、原木林の造成など「鳥取原木しいたけ」の更なる増産と品質向上のための取組に加え、森林の新たな利用も進めます。

里山等の整備を進めます

- ・里山等における機能の低下した広葉樹林や放置竹林等の整備を推進
- ・比較的身近な存在である里山等の広葉樹林を整備することで、公益的機能を効果的に発揮

原木林造成やほだ木生産に対する支援等しいたけ生産に対する支援を進めます

- ・里山等の広葉樹林の整備にあわせて原木林を造成し、適切な利活用を推進
- ・森林セラピー等新たな方法による森林の利用を進めます

【目標指標】 放置竹林等の整備面積	18ha/年 (H20)	100ha/年 (H26)
乾しいたけ生産量	25t (H20)	35t (H26)

< 主な役割 >

森林所有者等

里山等における広葉樹林や放置竹林等の整備に努めます

- ・放置された里山等における広葉樹林や竹林等の整備
- ・里山等を活用した原木林造成

しいたけ生産者

原木の確保と良質な「鳥取原木しいたけ」の生産に努めます

- ・安全・安心で良質な「鳥取原木しいたけ」の生産
- ・原木の確保による生産拡大、原木生産後の森林の確実な更新
- ・労働作業の軽減による生産コストの縮減

行政

広葉樹林や放置竹林等の整備と「鳥取原木しいたけ」の品質向上・増産の取組を進めます

- ・放置された里山等における広葉樹林や竹林等の整備に対する支援
- ・里山等を活用した原木林造成に対する支援
- ・規模拡大を行うしいたけ生産者や施設整備を行う新規生産者への支援
- ・森林セラピー等新たな手法による里山等の森林の利活用

4 森林・林業・木材産業の再生に向けた戦略プロジェクト

本プランに基づいた先進的な取組を実施し、その効果を全県に波及させるため、以下の3つの戦略プロジェクトを展開します。

低コスト林業実践プロジェクト

【概要】

- ・ 県・市町村・森林組合・素材生産業者・建設業者等の連携のもと、50ha規模でのモデル団地を設定（拠点の設置）
- ・ 高密度な路網整備と高性能林業機械の導入により、安定的かつ低コストな素材生産システムを確立するとともに、人材の育成を行い、全県的な取組へと拡大させる。
- ・ 目標指標 : 作業効率：5 m³/人/日
施業経費：6,000円/m³（伐採～山土場まで）

【手法】

施業提案による集約化と森林境界の明確化

- ・ 森林組合、県、市町村の連携のもと、施業提案による集約化や森林境界の明確化を実施

林内路網の整備

- ・ 建設業者との連携による作業道の整備
- ・ 林道や作業道等を効率的に組み合わせ、100m/haを目標とした林内路網を整備

高性能林業機械の活用

- ・ 高性能林業機械による伐採・搬出手法の習得と効率的な作業システムの確立

効果検証等

- ・ コスト分析により作業システムの効果検証を行うとともに、問題点・成果等を明確化
- ・ プロジェクトを通じ、森林施業プランナーや鳥取式作業道開設士、高性能林業機械オペレーターの実践的な育成を実施
- ・ 森林GISの活用による森林情報の把握、施業提案活動、路網計画立案への活用
- ・ 県の支援の集中投資を図り、プロジェクトを支援

とっとり県産材流通改革・利用拡大プロジェクト

【概要】

- ・原木の安定取引や流通コスト削減のため、効率的な仕分けを行う中間土場をモデル的に設置して出材ロットを確保し、大型トレーラー等による県内外の大口需要先への大量一括輸送を推進する。
- ・公共建築物木材利用促進法を踏まえ、本県においても公共建築物の木造化等による県産材の積極的利用を進めるとともに、その効果を民間にも波及させる。
- ・目標指標 : 原木の直送量 : 10.0万m³
在来木造住宅における県産材使用率(推計) : 60%

【手法】

中間土場のモデル的設置

- ・原木の用途に応じた流通の合理化・安定取引や流通コスト削減のため、地域の原木を一手に集荷し選別する中間土場をモデル的に設置し、A B C各規格ごとの出材ロットを確保

大量一括輸送体制の構築

- ・選別された材それぞれの用途に応じ、大型トレーラー等を用いた県内外の大口需要先への大量一括輸送を推進

県産材の利用拡大

- ・公共建築物等における木材の利用の促進に関する法律（平成22年法律第36号）を踏まえ、県産材利用の意義を発信する拠点として、公共建築物の整備において県産材の率先利用を推進
- ・上記の取組に加え、一般の住宅等における県産材の利用促進についても推進
- ・公共建築物等における木材の利用の促進に関する法律に定める木材製造高度化計画の認定を受けた事業者のほか、乾燥材やJ A S製品等の品質の確保された製品を生産する事業者について、県ホームページでの公表・紹介等の支援を実施
- ・大量かつ安定的に消費する新たな流通ルートの確保のため、海外への販路開拓を展開

効果検証等

- ・コスト分析により中間土場、大量一括輸送の効果を検証
- ・公共建築物等における県産材の使用率について調査、公表
- ・取組内容の広報を積極的に行うことにより、関係者間のみにとどまらず県民全体を巻き込んだ取組へと発展

県民とともに進める森林づくりプロジェクト

【概要】

- ・平成25年に本県で開催予定の全国植樹祭を契機として、県民・企業参加型の森林づくりを進めることにより、すべての県民に多様な恩恵を与えている森林の大切さや守り育てる意義を広く発信

【手法】

「とっとり共生の森」による森林の保全活動の更なる充実

- ・とっとり共生の森への企業参画促進と活動の充実に向けた県民・行政の支援、各種メディアやインターネット等を活用したPR活動を展開

カーボン・オフセットを活用した森林整備の推進

- ・カーボン・オフセットを活用した森林整備手法の展開とカーボン・オフセットに対する県民・企業の理解を促進

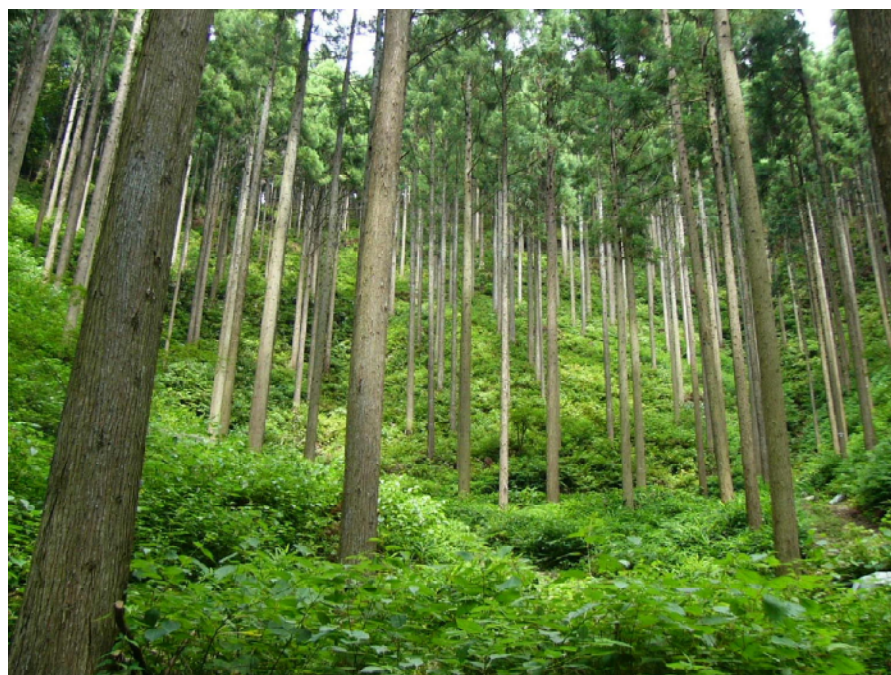
「ととりの木づかい」運動の展開

- ・県産材の利用拡大が、林業・山村の活性化や森林の適切な整備・保全につながることに對する県民の理解の醸成に向けた取組の展開

平成25年「第64回全国植樹祭」に向けた県民運動の展開

- ・県民運動(全国豊かな海づくり大会の「白うさぎ大使による新たな国づくり運動」を発展・継承)による森林保全活動や環境保全活動を推進し、県民の森林づくりに対する必要性の理解や全国植樹祭への参加意識の醸成等を促進
- ・全国との交流を図る中で、環境先進県である「とっとり」をアピール
- ・各種メディアやインターネット等を活用し、効果的かつ積極的に情報を発信

白うさぎ大使による新たな国造り運動(案)	
<p>森林保全活動</p> <p>自然や森林の役割を伝承</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「森林を知る集い」の実施 <ul style="list-style-type: none"> 魅力あるふるさと「とっとり」を支える豊かな自然や森林の役割を再認識し、その良さ大切さを学ぶ。 ・里山や森林体験の無い子供たち等には、背負子(しよいこ)を使った薪拾いや、薪や炭を利用したストーブや、間伐材の利用等、セットで身近な体験型の仕掛けから導入。 ・森林所有者ではない県民も参加した「森林の健康診断」を県内各地で実施。森林を遠目でなく実際に入山して観察することで、新たな森林への関心を引き立てていく。 活力のある健全な森林と共生 <ul style="list-style-type: none"> ・「とっとり木づかい運動」の展開 <ul style="list-style-type: none"> 各家庭や企業に何か一つ、県産材の木製品を使っていただく運動の展開。 ・木製プランターカバーキットを各家庭に配布し組立てを依頼、自分流の着色等を施していただいたプランターカバーを回収し大会で使用。大会後は、各家庭にメモリアルとして返却。 ・森林認証材等の県産材を大会で使用する木製品に利用。 ・里山林等の再生活動 <ul style="list-style-type: none"> 放置された里山林や、人工林、荒廃した竹林の生物多様性を保全するための再生活動を実施。 ・ナラ枯れ防除等活動の展開 <ul style="list-style-type: none"> 被害拡大の続くナラ枯れ(カシ/ナガキウムシ)の防除活動を実施。 ・粘着テープの巻き付け等危険度の低い活動とし、被害木へのシイタケ菌の試行等も交えて、楽しみながら実施。 	<p style="text-align: center;">森林・林業の明るい将来</p> <div style="border: 2px solid red; border-radius: 10px; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px 0;"> <p>森林機能の回復</p> <p>森林の適正管理</p> <p>林業従事者の増加</p> <p>林業生産の活発化</p> <p>林業採算性改善</p> </div> <div style="background-color: #f08080; text-align: center; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>大会後の発展</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・県民が森林づくりの必要性を理解 ・木材需要の喚起 木材価格上昇 ・里山林等の生物多様性の保全 ・森林病害虫の被害防止 ・全国植樹祭等への参加意識の醸成
<p>環境保全活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・清掃活動、エコ活動、ボランティア活動等、身近な海や川や山の環境保全の大切さに気づききっかけの場となるよう、県民参加による清掃活動など環境保全活動を実施。大会開催の気運醸成、そして大会終了後もゴミの抑制など環境保全に配慮した活動や行動を意識する気運を盛り上げていく。 	



鳥取県農林水産部森林・林業総室

〒680-8570 鳥取市東町一丁目220

電話 0857-26-7299

FAX 0857-26-8192

E-mail shinrinringyo@pref.tottori.jp